

## 政策分野1 田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野1では、平成30年度は35事業を実施し、A評価が25事業、B評価が10事業となりました。

農業分野では、農用地の利用集積による農業生産基盤の強化を図りながら、意欲と能力のある若手就農者の育成確保や農産物のブランド化、トップセールスによる販売強化などを推進しました。

具体的には、平成30年11月1日の「すしの日」に復活デビューしました寿司専米「ムツニシキ」のブランド化と流通体制の構築・消費拡大を図りました。また、地域レベルアップ事業により、地域の現状・課題の洗い出しを行うマネジメント部会の開催や担い手育成のための各講座や検討会を開催しました。農地中間管理事業による農地の累計集積面積は目標面積24haに対し、実績は222.9haとなり目標を達成しました。六次産業化・農商工連携の推進では、六次産業化・地産地消推進協議会において策定した「黒石市六次産業化推進戦略」に基づき、地元の農産物を使用した加工品の開発・販売など、新たな食ビジネス創出への取り組みを支援することで、「食」を始めとした新たな産業の基盤づくりに努めました。

商工業の分野では、物流の効率化及び中小企業等の生産性向上と雇用の場の確保に向け、より一層の活性化や新たな産業開発等の促進に取り組みました。

具体的には、企業誘致・留置活動事業の一つである「黒石ICロジスティクスクロッシング」を推進することで物流の拠点化と雇用創出に取り組みました。令和2年4月には、進出第1号企業が操業開始する予定となっており、引き続き、着実に成果に結び付くよう税制等の優遇措置や規制緩和により企業が進出、拡大しやすい環境づくりを進めるとともに、誘致企業の早期操業に向けた調整に努めます。また、生産性向上特措法に基づく導入促進基本計画を策定し、意欲ある中小企業者等に対して税制支援や金融支援を行い、設備投資による労働生産性の向上に対する取り組みを後押ししました。

就業者支援の面では、新しい分野にチャレンジする起業家を積極的に支援するとともに、雇用機会の確保とマッチングに努めました。

具体的には、青森県・黒石市・黒石商工会議所の連携により創業・起業セミナー、創業相談ルームを開催し、知識習得やビジネスプランの構想、課題解決に向けた総合的な支援により、市内で4人の起業に結びつきました。また、ハローワーク黒石と共催し、新規高卒予定者を対象とした黒石管内単独の合同企業説明会を開催し、19社がブースを設け168人の生徒が参加したほか、市内企業の情報を掲載した「黒石市企業ガイドブック」を作成し、企業PRに努めました。

そのほか、黒石市の情報発信や黒石市製品の販売PRに繋げるため、都市部で開催する催事に黒石市ブースを出展し、市長によるトップセールスを実施したほか、見本市への出展や新商品開発に取り組む企業に対する支援を行いました。

## 政策分野2 田園観光産業都市黒石市への新たなひとの流れづくり

政策分野2では、平成30年度は32事業を実施し、A評価が24事業、B評価が6事業、C評価が2事業となりました。

観光の面では、歴史と伝統を活かした観光にさらに磨きをかけるため、温泉郷などの観光地としての受け入れ体制の充実やインバウンド対策の強化、若者も集い楽しめる魅力あるまちづくりの推進に取り組みました。

具体的には、中野もみじ山「小嵐山」改良事業において、紅葉床（こうようゆか）を設置し、中野川を臨んで色づいた紅葉を眺めながら食事を楽しむプランを実施したほか、駐車場からのアクセス道に防護柵を設置、LED灯光器や仮設トイレの設置による来訪者への安全性・利便性の向上に努めました。また、週末ごとにクラフト展やキャンドルナイトなどのイベントを開催し、平成29年度に引き続き平成30年度の来場者数は10万人を超え、夜間の来場者や外国人観光客は増加傾向が続いております。

インバウンド観光取組み体制整備事業においては、（一財）自治体国際化協会に職員を派遣し、オーストラリアをターゲットにしたインバウンド事業を推進するほか、市内においてもインバウンド受入に対応するための実践的な知識や情報発信に向けたスキル習得のための勉強会を実施することにより受入側の意識向上につながりました。

また、古い町並みを大切にし、来訪者が癒される空間の創出に努めるため、観光・まち歩きの出発点となる「松の湯交流館」を有する中町こみせ通りは、国指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などを含む伝統的建造物の維持継続を図りました。

具体的には、景観形成事業において、街並みやこみせなどの歴史的な資源を活かした景観形成を図るとともに、歴史的な街並みの再生に取り組み、ユニバーサルデザインを取り入れた安心で快適な回遊空間創出によりまちなかの活性化を図るための「歴史的景観形成計画」を策定し、道路の美装化や建物の外観修景への助成を実施することとしております。

さらに、歴史的・文化的に貴重な文化財においては、適切な保存と活用を図り、黒石よされなどの伝統芸能を後世に継承するとともに、自主的で個性豊かな芸術・文化活動を積極的に支援しました。

具体的には、黒石よされ事業において、市民総参加による黒石よされを目指し、悪天候により1日中止になったものの、流し踊りへの参加は県外の団体も含め16団体、踊り子1,300人参加と伝統継承の事業の目的を達成でき、観光客数が21,100人であり、市の活性化にも貢献できました。

移住促進の面では、首都圏等の方々を本市に還流させ、市外に向けて本市の魅力を情報発信するとともに、本市を訪れる方々と市民が交流できるような仕組みづくりをするために、国・県の取組みと連携しました。

具体的には、移住情報発信事業において、首都圏で開催される移住セミナーに参加し、成果として移住に関する相談・情報提供の件数は24件を目標にしていたのですが、実績は12件であり目標を達成することができませんでした。

### 政策分野3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野3では、平成30年度は35事業を実施し、A評価が26事業、B評価が5事業、C評価が4事業となりました。

子育て支援の面では、黒石市子ども・子育て支援事業計画に基づき、子どもが心身ともに健やかに育ち、子どもを産み育てる市民が、喜びを感じることができる生活環境の実現に向け、教育・保育の確保、妊産婦・乳幼児・児童の健康確保、要保護児童への対応など、多面的な子育て支援対策を総合的に推進しました。

具体的には、子ども医療費給付事業（乳幼児医療費給付事業）において、就学前児童の医療費無料化に加え、小学校就学児童の入院費の負担をなくしたほか、育児用品を購入する際に利用できる「子育て応援利用券」の交付による負担軽減により、児童の保健及び出生育環境の向上を図りました。相談・指導・支援、訪問事業では、妊娠・出産への不安や子育てに悩む母親とその家族の様々な相談に応じ、安心して妊娠・出産・子育てができるよう、妊娠期からの継続した支援の強化、個別ニーズの把握及び必要なサービスを円滑に利用できるよう、総合的にきめ細かい支援体制を構築し、妊娠期からの継続した支援を実施した人の割合は目標値の60.0%に対して実績値は99.04%であり目標を達成できました。

学校教育の面では、将来の本市を担う人材の育成に向け、「個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育」のスローガンのもと、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視し、特色ある教育活動の推進をはじめ、教育環境の充実のための学校適正配置と併せて、子育て世代から要望されている学校給食の小学校完全実施に向けて取り組みました。

具体的には、新設黒石小学校の新築及び新設黒石東小学校の増築に着手したほか、算数・数学「UPる」事業による市内各小・中学校に9人の算数・数学の指導員を配置し、チームティーチングによる児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行うなど教育環境の充実を図りました。

社会教育の面では、生涯にわたり健康で明るく活みなぎる地域社会の実現に向け、学校教育と連携を図るとともに、家庭及び地域での学びを生かした人と人とのつながりを大切にする社会教育の推進に努めました。

具体的には、リーダーまるかじり体験塾では、成果として地域や学校でリーダー的な役割を担っている青少年10人を対象にコミュニケーション能力を高め、レクリエーションや軽スポーツ等様々な体験学習を実施したほか、他リーダー会との意見交換会を設け、相互の課題について考えるなど、リーダーとしての資質向上を図りました。また、銀河宇宙探検隊では、延べ86人が参加し、自然環境体験学習（天文教室）を開催することで自然に対する興味や関心を高め、自らの将来に夢や希望を持つ想像力豊かな心の育成を図りました。

#### 政策分野4 健康都市宣言に基づく健康づくりと「黒石力（くろいしりょく）」（＝コミュニティカ）を活かした地域づくり

政策分野4では、平成30年度は26事業を実施し、A評価が14事業、B評価が11事業、C評価が1事業となりました。

健康づくりの面では、市民がいきいきと暮らすために、健康診査及びがん検診の受診率の向上など、地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指した施策を展開しました。

具体的には、ライフサイクルに応じた健康対策を推進するため、各健（検）診事業や集団健康教育、健康づくり応援教室、個別運動教室、保健指導、健康相談等を実施し、生活習慣病の発生予防に努めたほか、未受診者対策として無関心層へ向けた個別の受診勧奨を実施するなど、各種健（検）診事業の受診率向上に取り組みました。受診率については、前年度より上回った項目もあったものの、目標値を達成できていないため、事業の内容・実施方法について、引き続き目標達成に向けて取り組みます。

スポーツの面では、人口減少社会においてスポーツ人口が減少する傾向にはありますが、積極的にスポーツを取り入れ、喜びと感動に満ちたスポーツの振興に努めました。

具体的には、一市民スポーツの普及・推進と市内各地区による交流を深めることを目的に市民運動会を開催しました。市内10地区協議会が参加し、誰でも簡単にできる綱引き、玉入れ等の競技を通じて、普段からの適度な運動の必要性や健康に対する意識の向上と、各地区での連帯感を強化することで、健康づくりと黒石力向上を図ることができました。また、各種スポーツ教室においては、冬期間の現役競技者の練習不足を解消し、基礎体力づくり及び技術の向上を目的にスポーツ教室を1回開催したほか、学校施設開放事業においては、市民の健康増進、生涯スポーツの普及、技術向上、青少年の健全育成のため市内スポーツサークル活動の場として学校体育施設を開放し、延べ利用者数37,714人の利用がありました。

協働体制の確立については、市・消防署・各地区協議会・市民・市外在住の本市出身者等が、それぞれの役割分担を明確にし、ともに協力し合いながら、これまで培われてきた地域コミュニティを活性化させ、地域のことは地域で考え行動する住民主体のまちづくりを支援しました。

具体的には、自主防災組織の設立と支援に関する事業において、災害に強いまちづくりと組織率100%を目指し、自主防災組織の設立及び活動に対し補助金を交付することで支援しました。成果として、自主防災組織の結成数は10団体を目標としていましたが、実績は11団体であり目標を達成しました。また、地域力向上事業においては、地域の問題を住民自らが解決することができるよう課題・解決策を話し合う場を持つことで、今まで以上に黒石力（コミュニティカ）向上が図られました。黒石市ごみ減量化事業においては、地球温暖化防止や自然環境の保全、さらには資源の節約が強く求められており、ごみの適正処理及び3R（リデュース・リユース・リサイクル）の促進は必要不可欠となっていて、ごみ減量化及びリサイクル率向上の実現に向けた施策を進めてきましたが、ごみリサイクル率は目標値30.0%に対して実績値12.8%であり目標を達成できていないことから引き続き目標達成に向けて取り組みます。